

賞 詞 写

歩兵第32連隊

同配属部隊

独立機関銃第3大隊

独立機関銃第17大隊

独立速射砲第3大隊第1中隊

独立第26部隊

師団通信隊の1分隊

工兵第24連隊の1分隊

右昭和20年5月上旬師団の敵第62軍団に対する総攻撃作戦に参加する連隊長陸軍大佐北郷裕郎統率の下主として棚原前田付近に戦闘師団の左第1線連隊として優勢なる敵に対し至難なる状況を克服し善戦善謀能く昼夜に亘り猛攻を敢行して敵後統部隊の出撃の初動を破碎し師団全般の攻勢を容易ならしめ大に威武を宣揚す

特に第1大隊は棚原西北側高地進撃の命を受くるや敵の混乱に乗じて一挙に突入疾風迅雷同地に進出して敵に甚大なる脅威を与え第2大隊第3大隊亦前田付近師団左翼の要衝に痛撃を加え更に独立第26大隊は第1線大隊に勇猛こん随して之式威力を加え共に師団の攻勢作戦に寄与せる所極めて大なるものあり

移譲は連隊長の卓越せる指揮統率の下武勲真に他の模範とするに足る

依ってここに賞詞を附与す

昭和20年5月10日

第24師団長 陸軍中將 從四位 雨宮 巽
勲一等

沖縄作戦に於ける歩兵第89連隊史実史料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

歩兵第89連隊史実史料

第1部隊履歴の概要

1. 昭和19年7月8日
1. 昭和19年7月17日
1. 昭和19年7月17日
1. 昭和19年7月23日
1. 昭和19年8月1日
1. 昭和19年8月5日
1. 昭和19年8月10日
1. 自昭和19年8月10日
1. 至昭和19年12月9日
1. 昭和19年12月10日
1. 昭和19年12月10日
1. 自昭和19年12月11日
1. 至昭和20年3月22日
1. 昭和20年3月23日

動員下令満州国東安省東安
動員完結
東安省東安出発
下関上陸、翌4日別府到着
門司港出帆
沖縄本島那覇港上陸
中頭郡平良川到着
右地区に於ける陣地構築並びに同地付近の
警備
島尻南部転進の為平良川出発
島尻郡東風平村到着、同地区の陣地構築並
びに防備
東風平村にありて陣地構築並びに陣地防備
に任ず
沖縄本島一帯に対する敵機の爆撃開始甲号
戦備下令同日より戦闘記備完了す、

歩兵第89連隊（山3476部隊）戦闘経過の概要

自、昭20.3.23

至、昭20.4.27

1. 戦闘配備 左記要図の如し

2. 戦闘経過

(1) 昭和20年3月23日、朝来突如南方上空に敵機の大編隊現出0700頃より沖縄全島に対し爆撃を開始す

軍は直ちに甲号戦備下令、各部隊は戦闘配備を完備せり

(2) 翌24日、摩文仁～湊川南方海上に敵巡洋艦数隻現出艦砲射撃を開始せり、其の主射向は湊川、具志頭、摩文仁並びに新城、東風平村付近なり

(3) 3月25日より爾後連日沖縄南部は爆撃及び艦砲射撃により攻撃を受けたり、この間各部隊は夜間陣地の補強、構築障害物等の設置に寧日なかりき

(4) 3月27日、28日両日に亘り0700頃より摩文仁～湊川海岸に陽動的偽上陸を実施せり

(5) 4月1日、敢然敵は中頭郡中飛行場正面に上陸を開始せり、その兵力約6～7師団なるもの如し

(6) 4月15日、第62師団（石部隊）の状況意の如くならざるため第3大隊は運玉森（与那原北方約15キロ）に転進を命ぜらる

(7) 4月15日、部隊より第1回の斬り込み隊を出す、各中隊より下士官を長とする5名1組（但し各大隊より将校を長とする1組を含む）

(8) 4月20日、第3大隊は他部隊と交代帰還せり

(9) 4月21日、22日に亘り斬り込み隊の一部帰還せり

斬り込み隊の行動及び任務

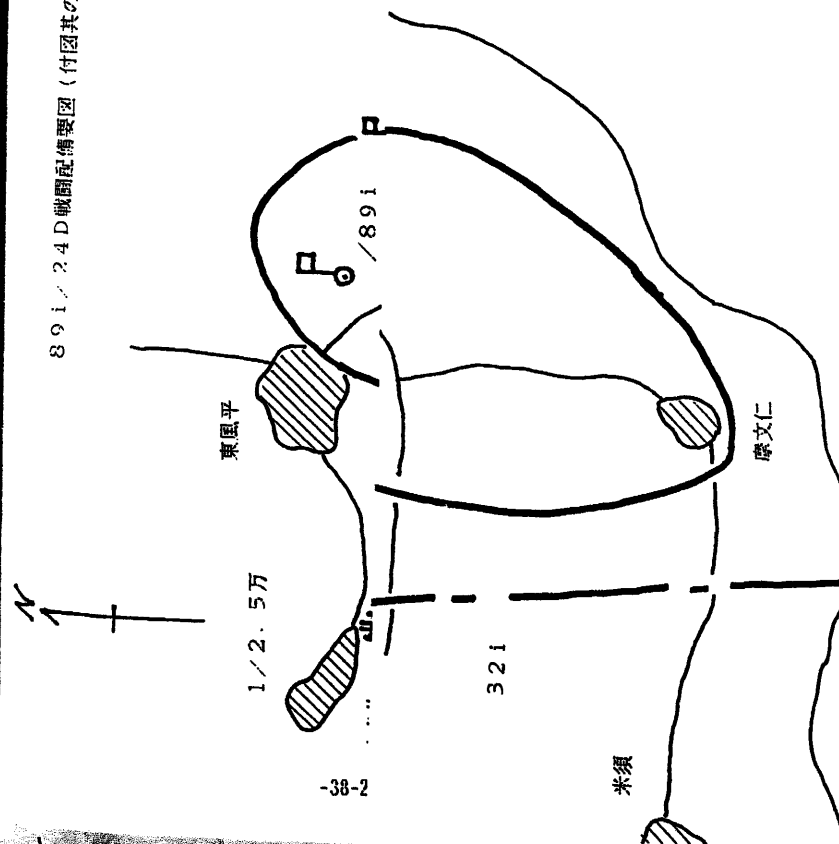
任務 敵戦車及び迫撃砲陣地の爆砕

行動 師団司令部（午座）にて命令受領、中頭郡北上原付近より敵中に潜入せしめたり

戦果 判然ならざるも戦車5かく座、迫撃砲陣地爆砕約7門、自動車爆砕6、幕舎爆砕13、人員殺傷約50名、友軍の損害未帰還人員15名

(10) 4月21日、天1号作戦準備部隊移動のため各中隊より将校1、下士官

89i/24D戦闘配備要図（付図其の1）



00頃

始せり、

受けたりき
陽動的

力約6

3大隊

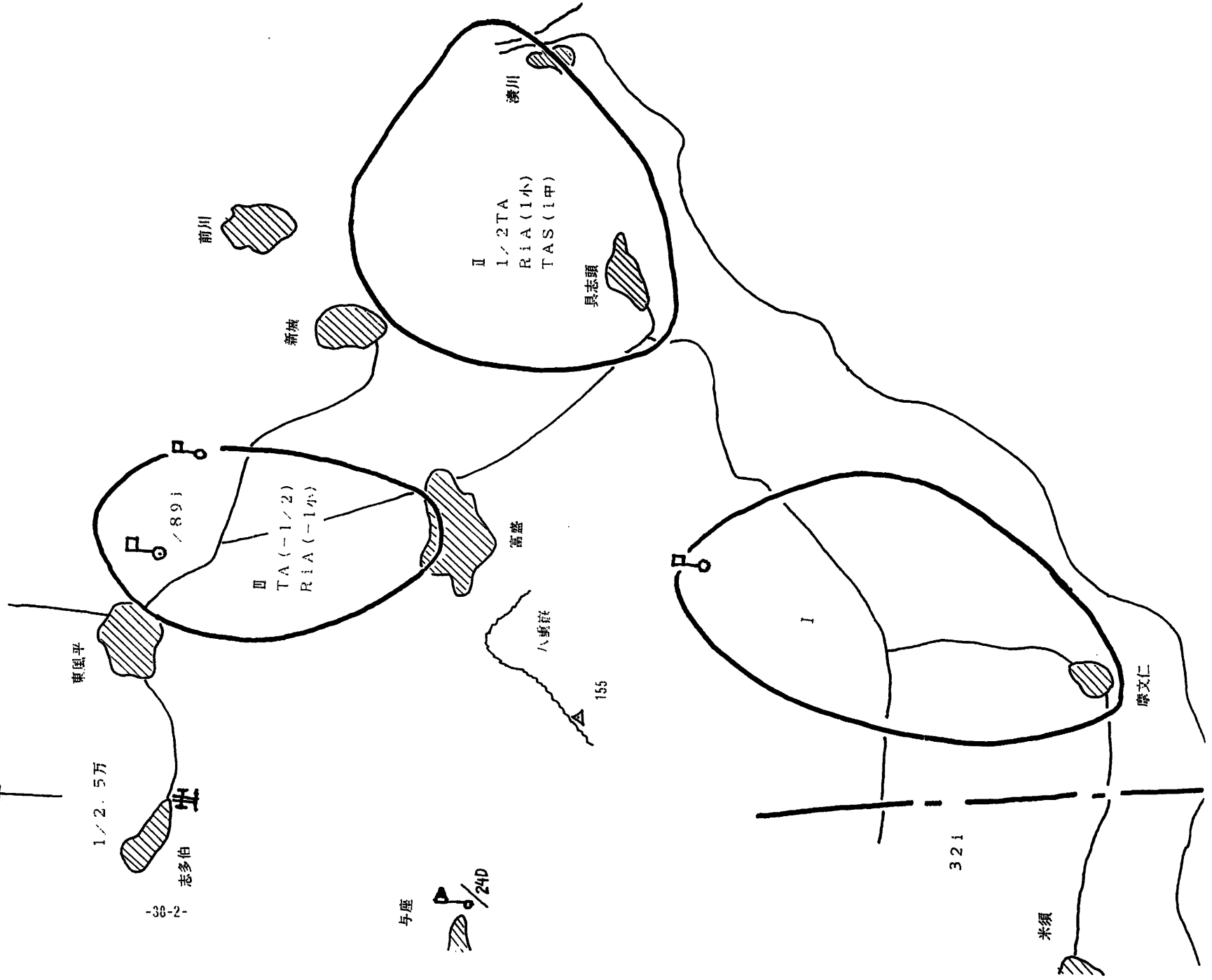
官を長

中に潜

車爆碎
員15

下士官

891、24D戦艦配備要図（付図其の1）



1、兵2地形偵察のため南風原付近に派遣す

(11) 4月26日、第62師団正面状況不利なると新戦準備のため首里の線に転進の命を受く

(12) 4月27日、日没後行動開始、翌8日南風原付近に滞在、同日日没後行動を開始左記の如く配備に就きたり

部隊本部---新川

第1大隊---津嘉山

第2大隊---首里-第32連隊(山3475部隊)に配属せらる

第3大隊---南風原村付近

歩兵第89連隊(山3476部隊) 戦闘経過の概要

自、昭20.4.28

至、昭20.5.3

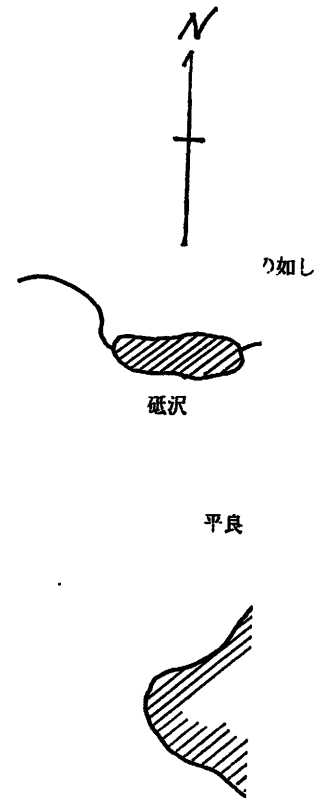
1. 戦闘配備 左記要図の如し

配属部隊のTAS1中隊RiA1小隊独立機関銃1中隊

2. 戦闘経過

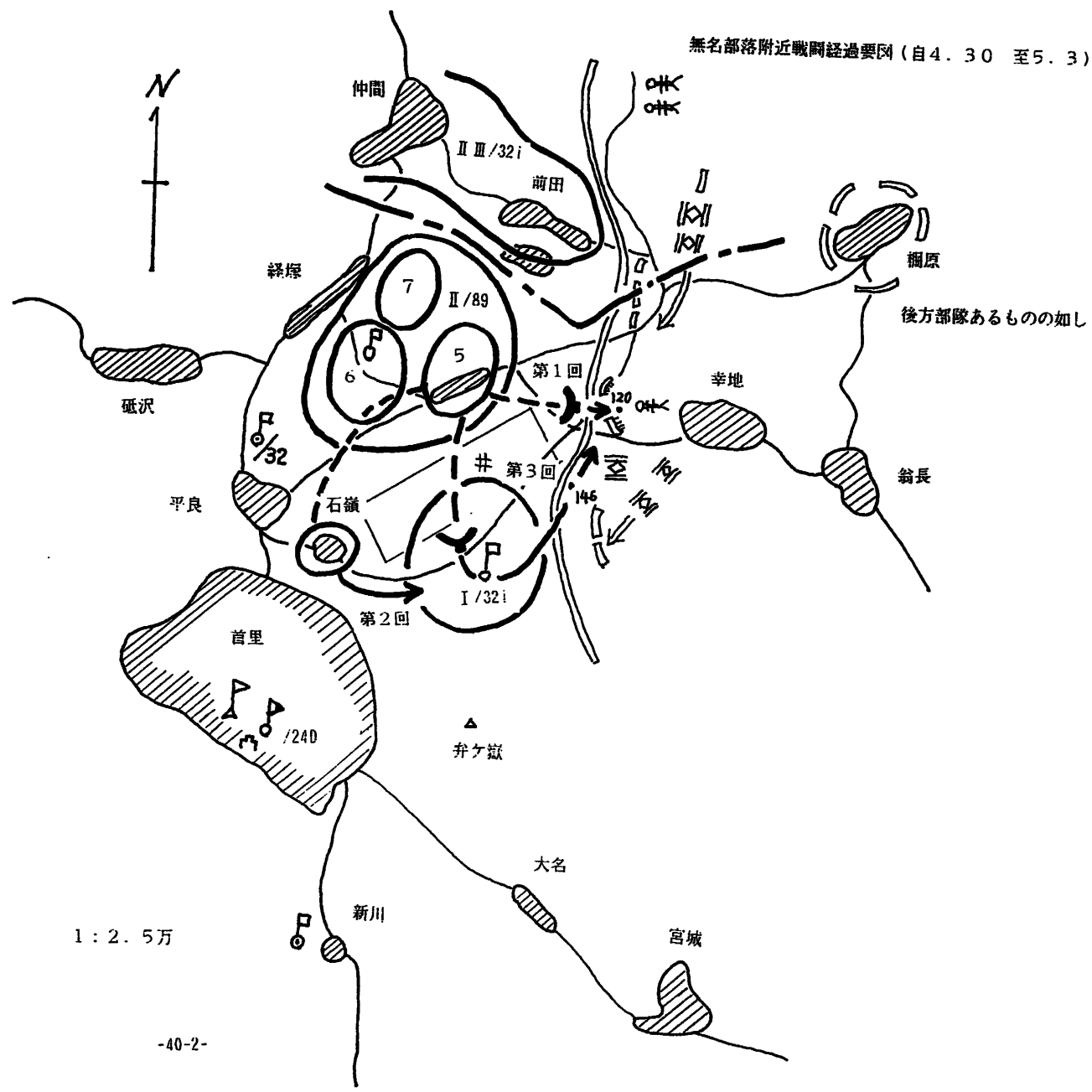
- (1) 4月28日、日没後南風原を出発同29日首里到着32i長の指揮下に入る、29日夕刻首里出発前田南方無名部落付近に到着、30日未明までに陣地配属概略完了
 - (2) 当時敵情要図の如くにして、該部落付近一帯は迫撃砲並びに戦車砲により昼夜の別なく射撃を受けつあり
 - (3) 5月1日、連隊命令により120高地の攻撃命令を受く、大隊長は第5中隊に該高地攻撃を命じ1ヶ小隊を以て飛行場方向より攻撃せしめたるも該小隊は損害甚大と時期天明に至りたるを以て攻撃を中止す(小隊長負傷)
 - (4) 5月2日、第5中隊全兵力を以て石嶺方向より攻撃せしむべく第5中隊を石嶺部落に前進せしめたるも命令の誤りを生じ中止す、該移動に於て中隊長負傷す
 - (5) 5月3日夜、更に第5中隊1ヶ小隊を以て要図の方向より攻撃を命じたるも32iの第1大隊後方に於て大隊は総攻撃のため原所属不復帰の命を受く
 - (6) 前項の命令を受領直ちに大隊は兵力を集結し転進の準備をなす
 - (7) 当時連隊本部は新川より宮城に移動しありて総攻撃の準備中なり
 - (8) 5月4日、日没後大隊は首里南方約3キロ宮城に転進すべく無名部落を出発せり
 - (9) 5月4日、夜半宮城北側に到着総攻撃の準備に着手せり
 - (10) 5月5日、日没後宮城北即を出発運玉森に前進す
3. 彼我の損害判然ならず

3)



1:2.5万

無名部落附近戦線概略地図 (自4.30 至5.3)



軍下に入
までに陣
砲により
は第5中
るも該小
負傷)
第5中隊
於て中隊
を命じた
の命を受

部落を出

1 : 2.5万

歩兵第89連隊（山3476部隊）戦闘経過概要

自、5. 1

至、5. 8（総攻撃）

1. 戦闘配備左記要図の如し

2. 戦闘経過

- (1) 5月1日頃より逐次戦闘準備をなしありたり、5月4日正午頃より行動開始せり第2大隊は当時首里方向より転進中なり
- (2) 当時敵の爆撃、迫撃砲の射撃、艦砲射撃等の射撃の集中甚だしく陣地等も逐次損害を受けつつあり
- (3) 5月5日、第1、第3大隊は要図の位置に前進するや時既に天明にして敵機数百機の爆撃、迫撃砲の射撃の集中を受け部隊は混沌たる状態なり、指揮官は大部分死傷せり
- (5) 第1、3大隊の生存者は指揮官を失い或は倒れ或は負傷し、遂に無統制部隊となりたるをもつて負傷者は戦友相互、或者はほふくしつつ後退せり
- (6) 第2大隊は当時第3線攻撃部隊として運玉森北側にて攻撃準備中にして、5月6日夜部隊本部南側に攻撃隊形をとりたり
然るに第1、3大隊は前記の状態に陥りたるをもつて部隊一時攻撃中止の状態になりたり
- (7) 時に、第2大隊は第6中隊を安里西北側高地に前進せしめありたるをもつて之が後退を命じたり
- (8) その時、即時第2大隊は運玉森南北の線を確保すべき命を受けたり
- (10) 部隊は師団命令に基き一時宮城に後退再編成を命ぜられたり、各部隊より兵員の補充を受け5月10日、第1、3大隊の編成を完了せり
- (11) 5月10日、部隊全部の配備完了せり（付図第 号参照）
（注 原資料に於て番号の欠落があるがその通り複製した）

3. 現在迄該戦闘に於ける損害左記の如し

- (1) 第1、3大隊は殆ど全滅状態にして各中隊生存者10名内外にして指揮官は皆無の状態なりき
- (2) 第2大隊は第6中隊長以下各小隊の幹部は全滅の状態にして、中隊長坪山

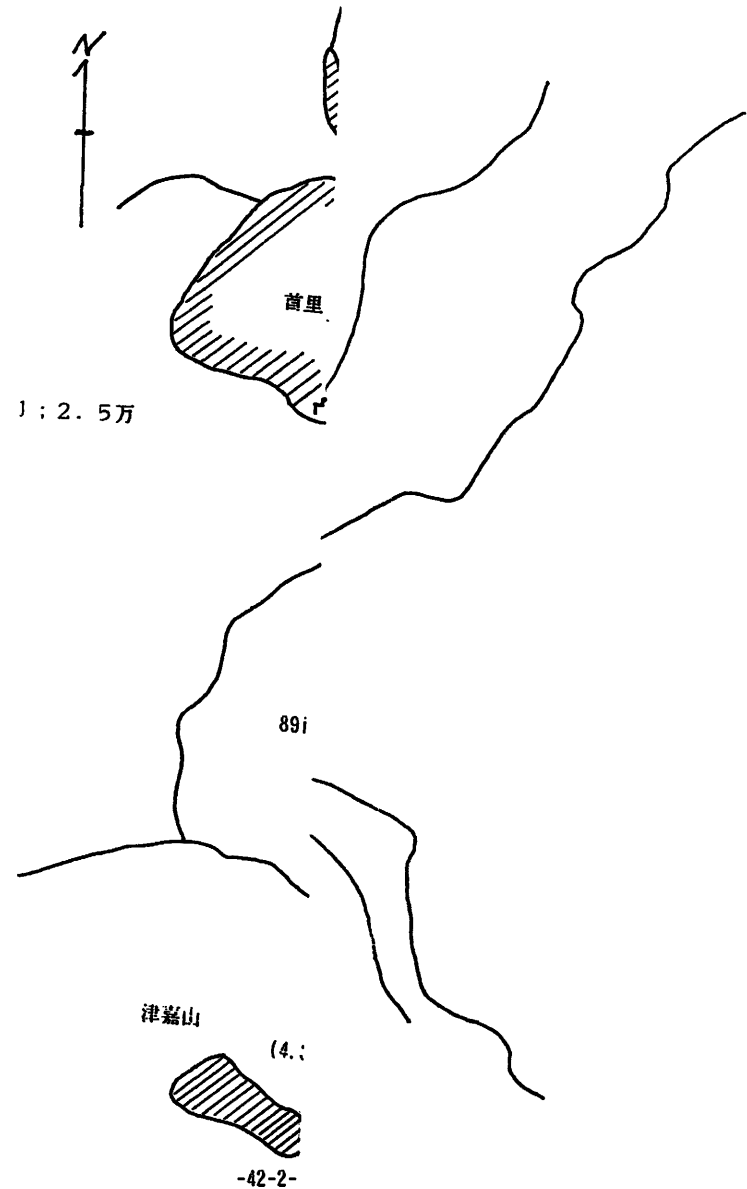
中尉替って指揮を取るに至る

- (3) 第1大隊長 丸地大尉戦死 後任師団勤務隊長田中大尉
第3大隊長 和田大尉戦死 後任連隊長 佐藤大尉

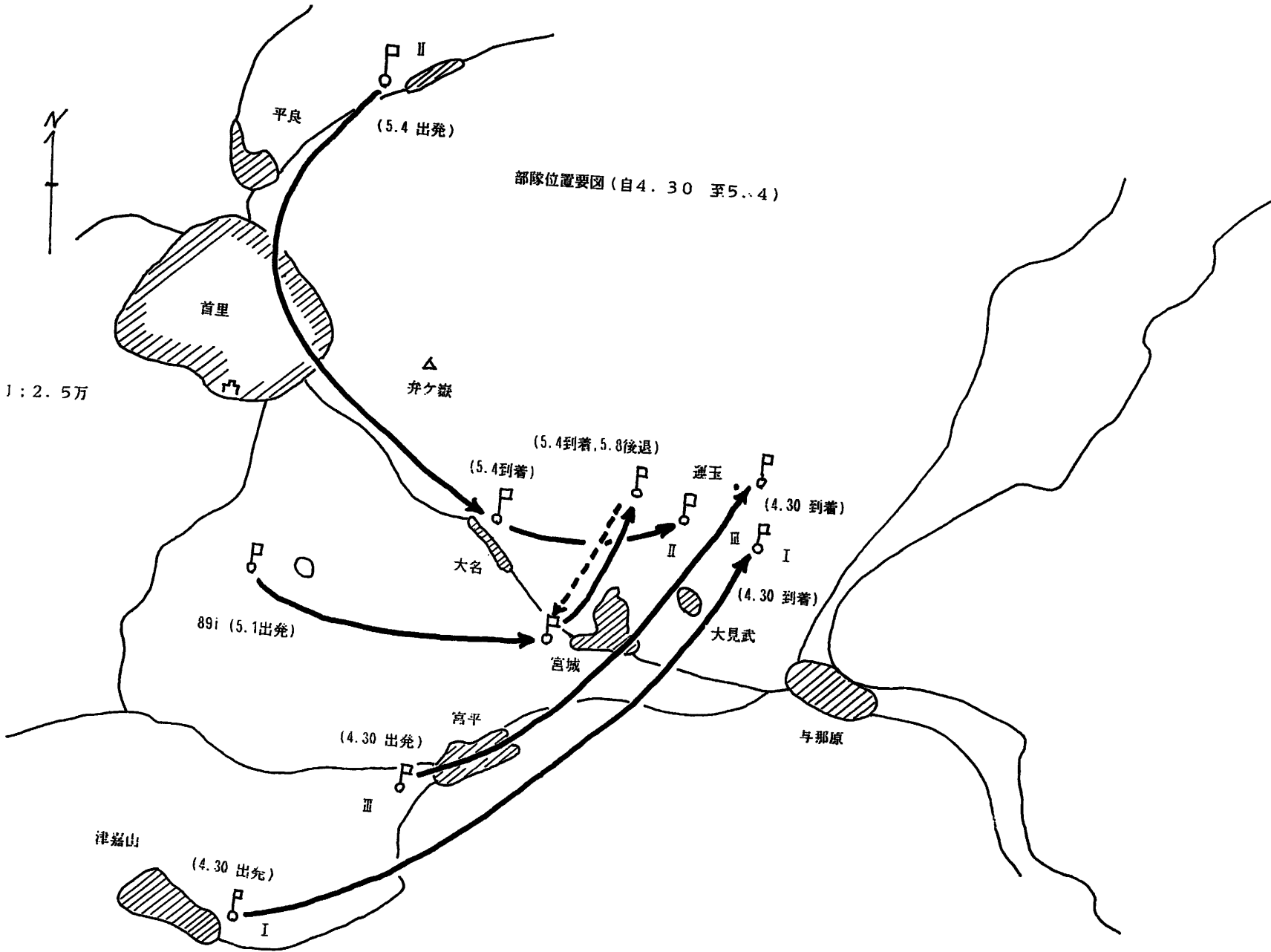
4. 本戦闘の教訓

攻撃にあたりては周到なる準備を必要とす

本戦闘にあたりては中隊の攻撃目標不明なりき、又砲兵と第1線大隊長との協定完了しあらず、又各中隊の連絡協定は完備しあらず、よって友軍相撃等或は友軍砲兵の弾幕下に第1線に入る状態になりたり



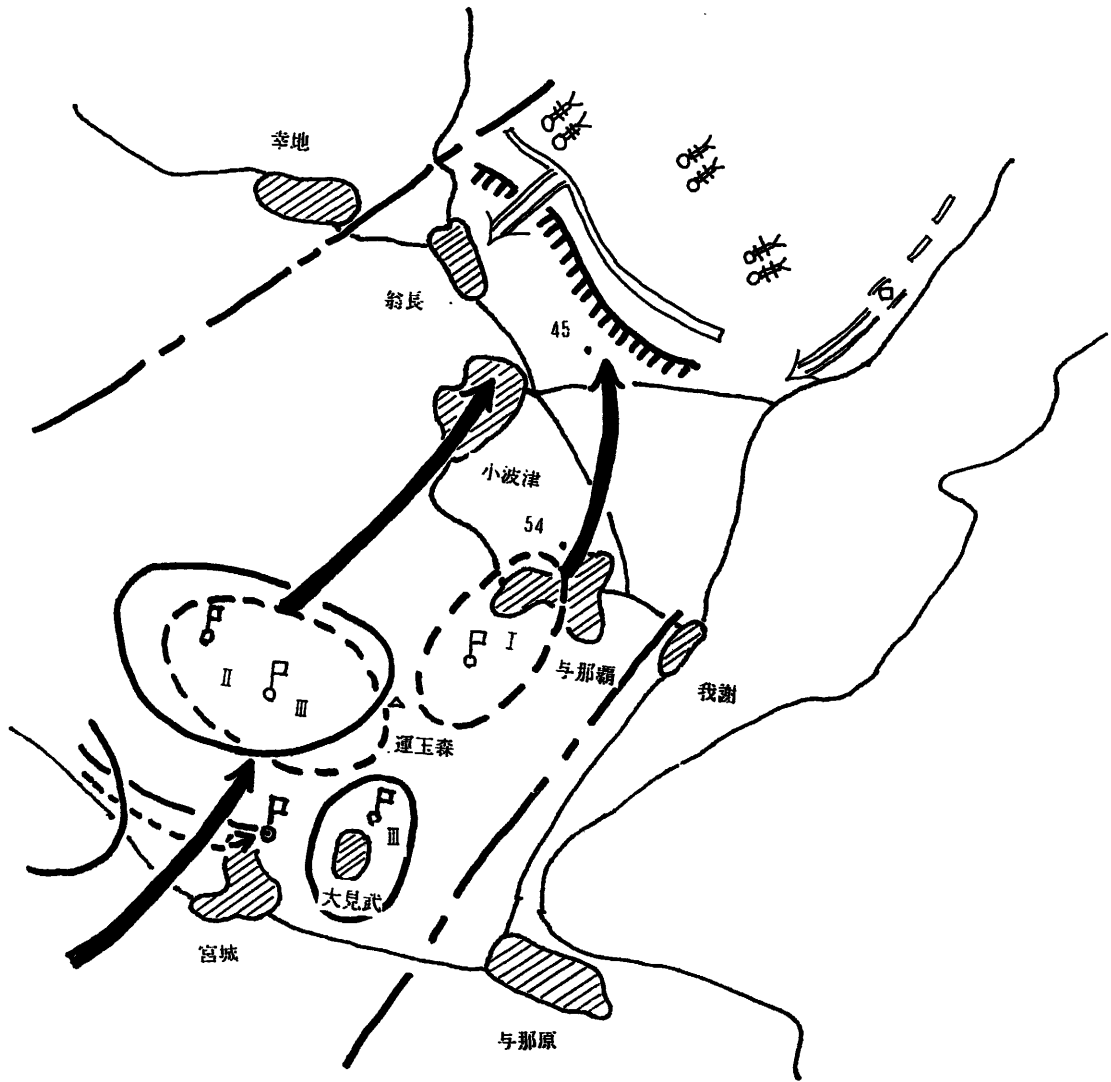
隊長との
軍相撃等



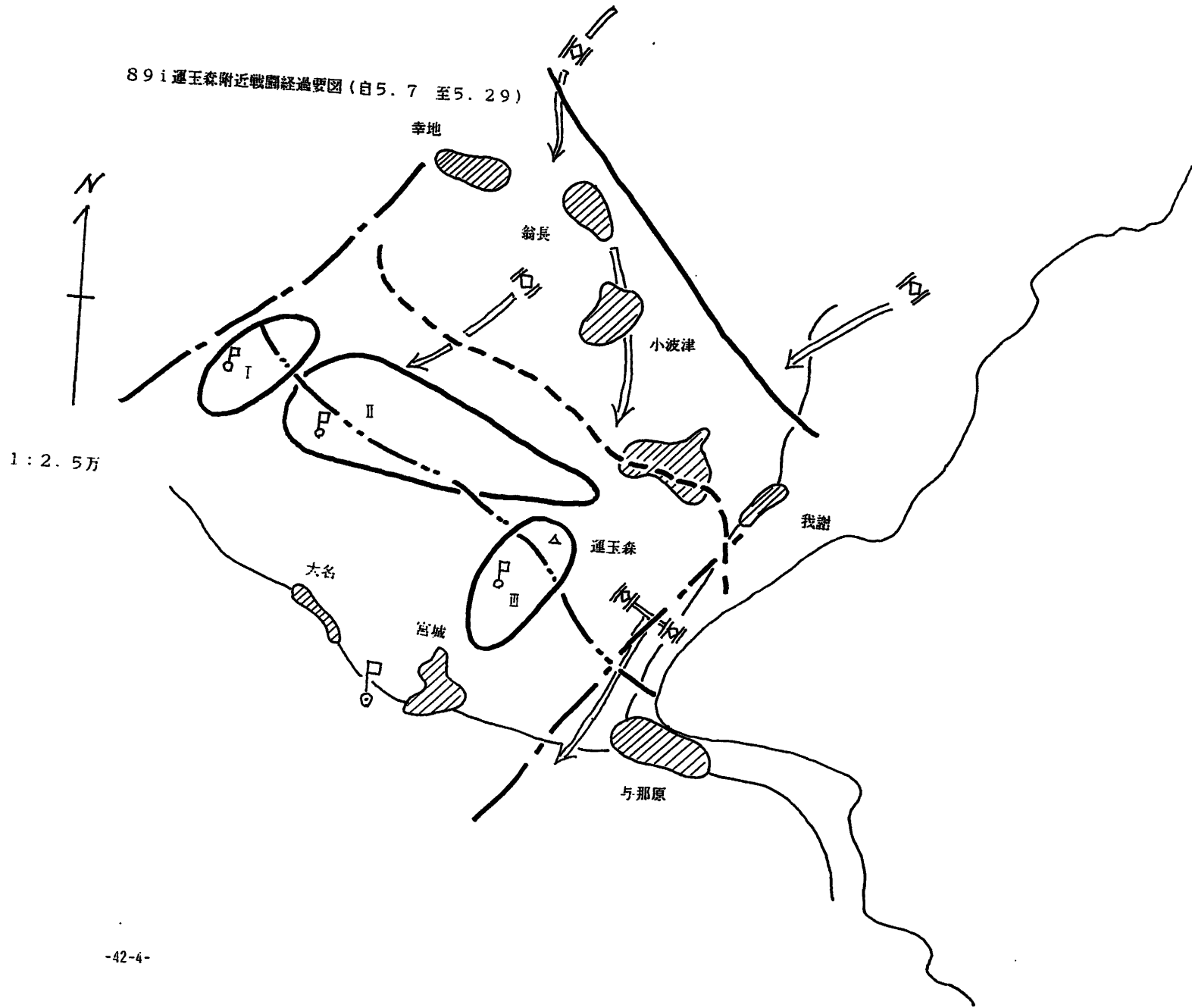
89 i 戰圖經過要圖



1 : 2.5 万



89 i 運玉森附近戰圖經過要圖(自5.7至5.29)



1:2.5万

歩兵第89連隊戦闘経過の概要

自、5月5日

至、5月29日

1. 戦闘配備 (付図第 〇の如し)

2. 戦闘経過の概要

- (1) 5月7日、第3(2?)大隊配備完了、第1、3大隊は5月10日完了し各部隊は堅固に陣地を確保、戦闘準備を完了す
(?)は筆者の推定
- (2) 5月9日頃より敵は小波津正面より運玉森を目標に攻撃を開始せり、運玉森東北方我謝部落54高地は5月10日頃より猛攻を受けたり、第5中隊1ヶ小隊は5月12日遂に54高地に於て全滅せり、然し該高地に於て敵に与えたる損害又甚大なりき
- (3) 敵は逐次小波津西北方高地方向より主攻撃を指向し来たり其の当時第7部隊(第7中隊?)は安里西北方高地にありて戦闘中なりしが敵の猛攻のため
(?)は筆者の推定
5月15日その兵力殆ど皆無の状態になりたり
- (4) 5月15日、第6中隊は第7中隊と交替す
- (5) 5月20日頃、敵は運玉森の頂上攻撃を開始せり該高地は制高点なる為猛烈なる攻撃を加えたるを以て5月25日遂に敵手に帰するに至る
- (6) 爾後第5中隊は数回に亘り奪回攻撃を行いたるも遂に成功せず
- (7) 第1、3大隊正面も逐次敵の圧迫を受くるに至りたり
- (8) 5月25日夜、敵は我謝方向より与那原付近を通過し強行突破を実施せり遂に敵は突破、雨乞森、島袋の線に進出せり
- (9) 5月26日、友軍機の爆撃敢行の情報ありて戦線の表示をなしたるも実施せざりき
- (10) 5月26日、連隊は戦線を一部整理し命令を下達す
第1、3大隊は現在地点より5~600m後方にて陣地を確保す、第2大隊は依然現在地を確保せり
- (11) 現在迄各部隊は毎夜数組の斬り込み組を編成、斬り込みを敢行しありて其の戦果見るべきものありき

- (12) 運玉森付近に在りたる砲兵観測所は5月23日以降撤退せるため、砲兵との連絡不十分なるため第1線大隊と砲兵の共同は適切を欠くに至る
- (13) 与那原付近を突破せる敵は逐次兵力を増大、後方に攻撃を準備中なり
- (14) 5月27日頃には部隊は多大の損害を蒙りたるを以つて他の部隊より兵力の補充を受け与那原付近を突破せる敵の攻撃を試みたるも効果少なし
- (15) 当時西海岸方面も那覇にも一部の敵侵入せり、依つて軍は島尻南部へ撤退し最後の持久を策するに至る

歩兵第89連隊(山3476部隊) 戦闘概要

1. 戦闘配備 付図第 号の如し
2. 戦闘経過の概要

- (1) 5月29日、運玉森南北の線にありたる連隊は軍命令に基き撤退を開始せり撤退順序左の如し
 部隊本部、第1大隊(配属部隊を含む)第2大隊(配属部隊を含む)は南風原村～山川～東風平村(一日潜伏)、31日与座の線に後退
 第3大隊(配属部隊を含む)は連隊の撤退援護部隊として首里南方約2キロ82高地を占領し撤退援護に任じたり
 尚各大隊は現陣地に兵力将校を長とする1ヶ小隊を残置、撤退援護に任せしめたり
- (2) 部隊は計画に基き5月30日東風平村に集結、31日子定の如く与座(山司令部旧位置)に到着せり
- (3) 6月1日、戦闘配備完了(付図第 参照)せり
- (4) 当時敵は急速度を以つて追尾せり、6月3日頃より敵迫撃砲弾は陣地付近に落達せり
- (5) 6月5日、敵は東風平村北方友寄付近に到着せり、当時師団撤退援護部隊(22i)は志多伯に在り援護に任じつつあり
- (6) 6月7日、敵は東風平村を突破せり
- (7) 6月10日頃より西海岸正面も亦戦車を伴う兵力約2ヶ大隊突破しあり
- (8) 6月10日、軍司令官より感状を授与さる
 (第24師団に対し) (別紙参照)
- (9) 6月11日、師団長より賞詞を授与す
 (歩兵第89連隊長に対し) (別紙参照)
- (10) 6月11日、師団長感状を授与されたるを以つて調辞を与ふ
 (隷下各部隊に対して)
- (11) 6月10日頃より敵は島尻南部一帯に対し猛烈なる艦砲射撃並びに迫撃砲の射撃熾烈を極め我が軍の損害益々甚大なり
- (12) 敵は陸正面の兵力を益々増加すると共に後方に資材の集積をなしたり
- (13) 各部隊は連夜斬り込み組を敵中に潜入せしめ盛んに攻撃を敢行中にして

其の戦果甚大なるものあり

(14) 6月15日、敵は遂に其の一部を以て八重瀬岳～与座岳の中間地区第1大隊を突破せり、其の兵力戦車を伴う約2中隊なり

(15) 他正面の状況は左記の如し

八重瀬岳～具志頭正面に於いては東風平村方面より戦車を伴う兵力約3ヶ中隊、6月14日突破せり

賞詞写

歩兵第89連隊

同記属部隊

独立機関銃第3大隊第1中隊

独立速射砲第23中隊

独立第27大隊

独立第29大隊

野砲兵第42連隊の1分隊

工兵第24連隊の1小隊

右は師団の首里北方正面の戦闘に参加するや連隊長陸軍大佐金山均統率の下主として東海岸正面に作戦し其5月初旬より約1月に亘る運玉森付近の防御戦闘間常に優勢なる敵を迎え善謀善戦以て敵の鋭鋒を挫き5月下旬の島尻地区転進に至る迄一步も譲らず克く師団右翼の要衝を確保して其作戦を容易ならしめたり特に深見大隊は連隊の中堅大隊として常に敵主力を迎え力戦敢闘敵の攻撃を破碎せり

以上は連隊長の卓越せる統帥の下遺憾なく連隊の伝統精神を発揮せるものにして武勲他の模範とするに足る

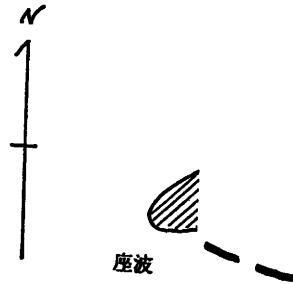
依ってここに賞詞を付与す

昭和20年6月11日

第24師団長陸軍中将従四位

勲一等

雨宮 巽



1 : 2.5万



地区第

兵力約

下主と
間常
進に至
り
を破碎

にして

89 i 新垣附近戦闘経過要図

N
↑
1 : 2.5万

